

市政トピックス

# 未来への誓いを胸に —仙台市成人式を開催しました

1月10日に、二十歳の節目を迎えた新成人の門出を祝う、仙台市成人式が開催されました。本年度の市内の新成人は、平成12年4月2日から平成13年4月1日に生まれた1万1101人。式典には約3200人の新成人が参加しました。今回は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、会場を例年のカメイアリーナ仙台（仙台市体育館）から屋根付き屋外施設のユアテックスタジアム仙台に変更するとともに、例年、記念撮影プ



▲新成人たちは、振り袖やスーツなど、華やかな姿で式に臨みました



▲誓いの言葉を述べる佐藤花保さん(右)と田村尚己さん(左)

ースやパネル展示などを行っていた交流の広場を中止。参加は事前登録制とし、入場時の検温・手指消毒、座席を指定席とするなど感染予防策を講じて実施しました。新成人で構成される成人式運営スタッフが思いに残る式にしたいと企画したカウントダウン映像を、大型ビジョンで放映。誕生から現在までを振り返る写真の数々や成長の歩みを伝えるメッセージが、成人式運営スタッフのナレーションとともに映し出されました。式典で郡市長は「これまでの経験と、これからの学びを生かしたアイデアで、新たな杜の都をつくり上げてほしい」とエールを送り、また新成人を代表し、佐藤花保さんと田村尚己さんが「周囲への感謝と思いやりの心を忘れず、自身の夢に向かって歩み続けます」と誓いの言葉を述べました。新成人たちは友人との再会を懐かしみながら、大人への一歩を踏み出しました。

式典の様子は、市の公式動画チャンネル「せんだいTube」で3月末まで配信しています。

市政トピックス

## 伝統の仙台みそ作り に挑戦

1月16日、「仙台伝統ものづくり塾 仙台みそづくり」とその歴史が木町通市民センターで開催されました。

仙台伝統ものづくり塾は、貴重な伝統文化を未来に継承していくことを目指し、青葉区を事務局とする「仙台伝統ものづくり塾実行委員会」が平成18年度から始めた取り組み。これまで仙台駄菓子や松川だるまなどのものづくり体験を開催しており、みそ作り体験は、実行委員会と柏木市民センターの共催で、平成30年度から実施しています。

当日は、午前・午後合わせて24人が参加。初めに、仙台みそその400年以上にわたる歴史や、風味の豊かさなどの特徴の説明を受けた後、みその仕込みを体験。参加者は完成したみその味を想像しながら、丁寧に仕込みを行っていました。また、豆みそや麦みそな



▲米こうじと蒸した大豆を撾り混ぜてすりつぶし、みそぎまに隙間なく入れていきます

市政トピックス

市政トピックス

## 移動の利便性を高める「Maas」の導入を進めています

さまざまな材料で作ったみそも紹介され、みその奥深さやものづくりの楽しさを感じていました。

近年、国内外で「Maas」(Mobility as a Service)の導入が進んでいます。Maasとは、目的地までのルートや移動手段、飲食店等の検索・予約・決済までをスマートフォン等で一括して行う仕組みのこと。本市でも公共交通の利用促進や、来訪者が増えることによるにぎわいの創出を目指し、仙台Maasを推進するための運営委員会を設立しました。委員会は、本市や市内の交通・観光など関連する企業・団体により構成。初会合となった12月23日は、委員会顧問の福島大学准教授・吉田樹氏が、国内外での活用事例を紹介し「成果が出るまで時間をかけながら、少しずつ仙台になじむ形を見つけてほしい」とアドバイスしました。運営委員会は、10月からのウェブ上でのサービス開始を目標に、仙台Maasのサービス内容の検討やシステムの構築等を行っています。

市政トピックス

## 障害者アスリートと小学生が交流

市では、障害への理解促進を図るため、障害者スポーツや文化芸術活動に取り組む障害のある方と小・中学生が交流し、一緒に活動を行う「心のバリアフリー推進事業」に取り組んでいます。この事業の一環として、昨年12月17日に、車いすバスケットボール日本代表女子チームヘッドコーチ・岩佐義明氏と日本代表候補・萩野真世選手が南材木町小学校を訪問し、児童たちと交流しました。



▲競技体験では、萩野選手(中央)から直接パスを受けてゴールを狙いました

初めに岩佐氏が、車いすバスケットボールのルールについて解説。さまざまな障害のある選手が一つのチームでプレーするため、障害の程度や身体能力に応じたチーム編成となることや、障害の有無にかかわらず一緒に競技を楽しめることなどの説明に、子どもたちは興味深く聞き入っていました。

その後、萩野選手が巧みなドリブルや素早い動きからのシュートを披露すると、会場全体から歓声が上がりました。子どもたちも、実際に競技用車いすに乗って競技を体験。最初は慣れない操作に戸惑っていましたが、短時間でミニゲームができるほどに上達しました。参加した子どもたちからは、

市政トピックス

## 仙台市防災功労表彰 を実施しました

本市の防災・減災に尽力され、顕著な功績のあった団体等を表彰する仙台市防災功労表彰を、1月19日に行いました。本年度受賞した2団体は次のとおりです(順不同)。

「仙台市宮城野地区婦人防火クラブ連絡協議会」「宮城学院女子大学 Food and Smile」



東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりの本を、紹介します。

「筆跡をきく 手記執筆者の話なし」



阪神大震災を記録しつづける会/編・刊

死者たちとどのように付き合いながら、暮らしを営んでいくか。それは、「震災後」を生きようとするわたしたちが直面した大切な問いで、この10年間は、迷いながらもそのための実践を重ねてきた時間であったと思います。わたしたちは、もう会えない人を惜しみ、ときに彼らの声を聞こうと努めながら、でも淡々と日々を紡いできました。阪神淡路大震災から25年で出版された「筆跡をきく」は、発災から10年間で書かれた手記と、その執筆者たちへ改めて行われたインタビューで構成されています。震災から25年という時間を生きた、いわば「先輩」の語り。その中には、亡き人や失われた風景がいまも存在している

「詩ふたつ 花を持って、会いにゆく 人生は森のなかの一日」



長田弘/著 グスタフ・クリムト/画 ヨンハウス 刊

という事実とともに、それぞれがたしかに獲得してきた、「震災後」を生き抜くための逞しさや技術が詰まっています。この本を読むことで、「これから」をより具体的に想像できる方もいるのではないのでしょうか。「詩ふたつ」は、その名の通り、長田弘氏の「花を持って、会いにゆく」と「人生は森のなかの一日」というふたつの詩と、クリムト氏による生き生きとした植物の絵からなるうつくしい本です。別れのあと、喪失の哀しみさえも慈しみながら生きる人の姿が描かれています。長田氏はあとがきで、「喪によって、人が発見するのは絆」と書かれていて、この言葉の意味を、ゆつくりと考えたいと思います。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585